

ドローンとAIを組み合わせた 農地把握ソリューションの事例

MIC

1 DRONE

ドローンによる空撮でデータを収集

測定の専門的な知識は必要ありません。
ドローンの測量モードを使うことで
半自動で航空写真用のデータ収集が可能です。

ドローンの目視外飛行には国土交通省の許可が必要です



TERRA DRONE

TERRA MAPPER 2

3Dデータ・オルソ画像を作成

画像合成や3Dデータといった
専門的な知識は必要ありません。
ドローンで撮影した画像から半自動で
3Dデータや航空写真を生成します。

NEC

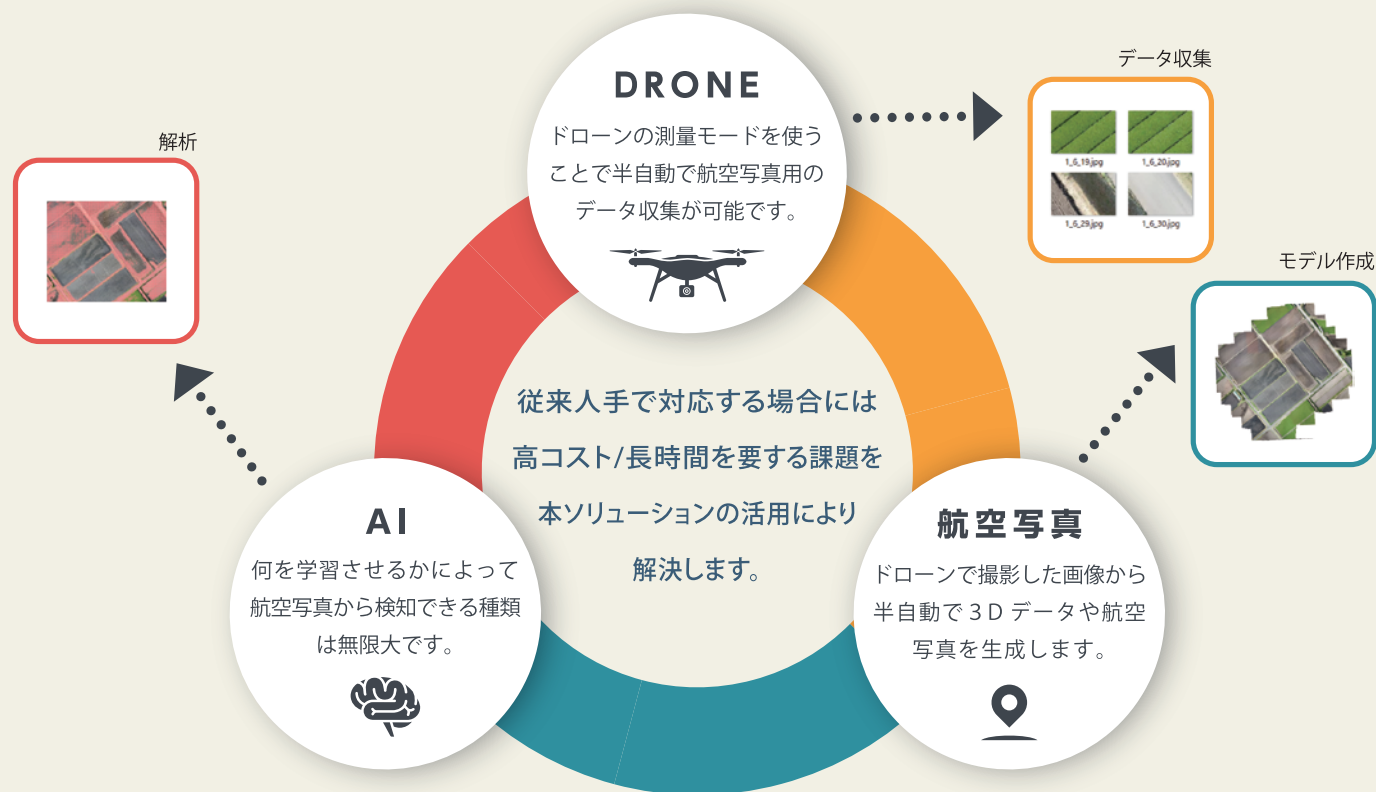
3 RAPID機械学習 ディープラーニング 画像解析

人工知能に関する専門的な知識は必要ありません。

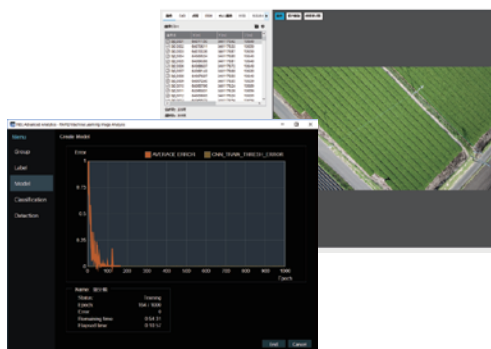
お客様の業務にそった画像解析用AIを作成しますので、
車、畑、建物、森など、何を学習させるかによって
航空写真から検知できる種類は無限大です。



ドローンで撮影し作成した航空写真をAIで解析 / 判定し圃場状態管理に活用。

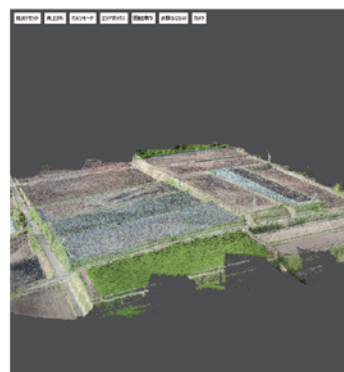


農地調査



どこの場所に何の作物が育成されているか実際の空撮画像から判定することが可能です。これにより人手をかけずに実態を高精度に把握することができます。

収穫量 / 順判断



空撮画像を用いて所定の作物の作付面積を調査することが可能です。これにより収穫量を予測するデータとしても活用いただけます。また、生育状況の進捗を確認することで収穫時期の特定などにも応用でき最適な収穫計画の策定を支援いたします。

お問い合わせ

株式会社南日本情報処理センター

本社 〒891-0115 鹿児島県鹿児島市東開町4-104 TEL 099-269-9711 FAX 0985-29-9127 <http://www.kk-mic.jp>